

未来を開く

長井市立長井北中学校 No 14 令和7年11月1日

美しいハーモニーが響く至福の空間 北中合唱コンクールを開催

10月31日(金)、本校体育館を会場に合唱コンクールを開催しました。学年合唱と各学級自由曲1曲を発表し、各学年ごとに最優秀賞を1学級選出しました。各学級、各学年ともに、素晴らしい合唱を創り上げることができました。学級・学年の財産にしてほしいと思います。



学年・学級	曲名	指揮者	伴奏者
1学年合唱	明日へ	手塚未夢さん	長岡茉紘先生
1年1組	大切なもの	早川知明希さん	佐藤璃空さん
1年2組	COSMOS	樋口都愛さん	荒井弥与さん
1年3組	時を超えて	大塚日暖さん	小松 愛さん
2学年合唱	ほらね、	松浦夏風さん	別部友奏さん
2年1組	旅立ちの時 ～Asian Dream Song～	田畝士道さん	二階堂さくらさん
2年2組	キミのもとへ…	酒井遼太郎さん	菅野有那さん
2年3組	あなたへ	高橋一平さん	長岡茉紘先生
3学年合唱	青い鳥	金田結衣さん	長岡茉紘先生
3年1組	決意	佐藤一颯さん	佐藤由麻さん
3年2組	虹	平 鷹景さん	佐藤柑奈さん
3年3組	群青	横山瑛都さん	椎名そらさん

3年生の合唱は圧巻でした。1・2年生に憧れを抱かせるとともに、目指す姿を示す合唱でした。

最優秀賞は次のとおりです。おめでとうございます。結果として優劣はつきましたが、練習の過程をとおして高めてきた団結力と絆、成長を感じることができました。

【合唱コンクールの結果】

【最優秀賞】 3年3組 2年2組 1年1組



平和への願いを込めて

令和7年度「長井市戦没者追悼式」が、10月18日(土)長井市民文化会館ホールで開催されました。「私たちができること」と題して、3年の船山陽莉さんが、長井南中学校3年の芳賀悠成さんとともに、作文を朗読しました。船山さんは、戦争を経験した方からお聞きしたお話をもとにして考えを深めたことを発表しました。大変素晴らしい内容でしたので紹介します。

「私たちができること」

長井北中学校 三年 船山陽莉

「戦争」、国家間で武力を用いて争うこと。人の命をも奪い、一般市民も参加させられること…そんな戦争が、この世界、そして日本で起こっていました。

私たちは今、平和で穏やかな生活ができています。ですが、八十年前第二次世界大戦中の日本ではどうだったのでしょうか？

私は、先日、戦争を経験した方にお話をさせていただく機会がありました。戦時中のことや、その時の心境について聞くことができました。その方は戦時中、十七、八歳という育ち盛りの年だったといえます。にもかかわらず、当時の写真を見せていただくと、大変痩せていらっしゃいました。戦時中辛かったことは何か、という質問への、最初の答えは「空腹」でした。毎日、十分に食事もとれず、常に腹をすかしている状態だったといえます。また、一日に何度も空襲があり、この先どうなるのか、不安な日々だったそうです。

空襲警報が鳴り、防空壕に逃げようとした時、周りの人が撃たれたり、同級生が戦地でアメリカ軍の捕虜になったりもしたそうです。そして、毎日死ぬ覚悟で生きていた、と教えてくださいました。

私は、話を聞きながら、胸にぽっかりと穴が空いたような、深い喪失感に襲われる気持ちになりました。いつも空腹状態で、空襲に怯えながら暮らし、周りの大切な人を失くす苦しみ、今とは全然違う生活です。想像

してもしきれないものです。しかし、実際にそんな生活をしてきた人が、目の前にいる。八十年前の日本にはたくさんいたのだと思うと、絶対に目を逸らしてはいけない、知らなければいけないことだと思います。

今、日本人の多くは戦争を経験していない世代です。戦争の悲惨さも実感はありません。ですが、経験していないからといって、「知らなくてもよい。」「自分たちには関係ない。」と、目を逸らしてもよい理由になりません。経験していなくても、資料を見たり、経験者の方のお話を聞いたりして、私たちも知ることができます。知ることができたら、次の世代に伝えることができます。今ある平和な暮らしは、苦しい時代を生き抜いてきた世代が、平和を誓い、語り継いできたからこそ、成り立っているものだと思います。それをつないでいくためにも、私たち世代も学ばなければいけないと思います。

おいしいものをたくさん食べられ、安全に安心して過ごせる、自由で平和な生活。大切な人と暮らし、平穏な生活ができていることが、どれほど尊く、幸せであるかを一人一人が考えたら、「争いをしよう。」なんて、誰も思わなくなると思います。

戦後八十年、私たちができることは、「戦争を知ること」、「戦争の悲惨さを伝えること」そして、「今の生活を大切にすること」だと思います。

残念ながら、今も世界では各地で紛争が起きているのも事実です。平和を大切にする思いを、世界の人々に広めるのは簡単なことではありませんが、「平和主義」を掲げている日本から、平和を訴えていくことには大きな意義があると信じます。

最後に、戦争によって亡くなられた方々、また戦争によって心や体に傷を負われた方々に、「あの悲劇を二度と起こさない」と約束し、これからの世界をつくっていきます。

